



Fグループ会報

No.23
フェリス女子学院大学
音楽部同窓会
Fグループ



「ごあいさつ」

会長 大島君子（3回）

Fグループの仕事をお引き受けしてから、瞬く間に一期三年が過ぎました。この間役員の誠心誠意のお働き、幹事の方々はじめ皆様の御協力で大任を果たさせていただきましたことを、深く感謝申し上げます。

時の流れは留まらず、短い三年の間にも様々な出来事がありました。世界の各地で内戦があり、日本ではいろいろな政府が出来、急にお米が足りなくなり、そして私達の近くでは前音楽学部長・前Fグループ名誉会長佐藤馨先生が突然御逝去されました。先生は文字通り母校が四年制大学音楽学部になる為に死力を尽くされました。感謝を込めて、心より御冥福をお祈り申し上げます。

皆様の中には身内に御不幸のあった方、信頼する友との別れを悲しんだ方もいらっしゃいましょうが、希望に満ちて新しい生活を始めた方、すばらしい出会いのあった方等、喜ばしい体験がたくさんおありでしょう。取り立てて事件がなく平穀無事であった方は幸せです。自分の目標に向かって努力した実感を持てる方、更に前進できたと自負する方はもっと幸せです。

事の成り行きで、学年幹事の御信任を得て、今後の一学期三年間を再びFグループ役員としてつとめることになりました。この三年の間にも又々変化が起ることでしょう。至りませんが、新しく就任された役員会メンバーと力を合わせて、皆様の御役に立てるよう更に努力します。よろしくお願ひ申し上げます。皆様もどうぞ意義ある日々をお過し下さい。

1994年度 同窓会会長選出のための選挙管理委員会 報告

2月7日、次期会長選挙の立候補者あるいは推薦候補者を受け付けるハガキを、同窓会員全員に郵送する。それにより、3月17日の消印で、大島君子さん（3回）が推薦候補者として届出される。

4月14日に告示。

5月12日、学年幹事会において、候補者が1名であったため、同窓会細則にもとづき、信任投票を行う。その結果、満場一致にて大島君子さんが会長に選出される。

役員紹介

会長	大島君子（3回）
副会長	江原郁子（8回） 中田幸子（9回）
書記	東海林裕子（20回） 黒滝貴代子（20回）
会計	斎藤令子（11回） 小林周子（29回）
執行委員	大坪悠子（15回） 佐々木あつみ（22回）
常任委員	西葉子（15回） 吉川慶子（15回） 石井朝美（37回） 長尾明子（37回）
会報	上月早苗（23回） 田中薰（25回）

同窓会総会報告

本年度の同窓会総会は、5月29日に桜木町のブリーズベイホテルにて開催されました。今回は大変嬉しい事に大勢の先生方に御出席いただき、とても充実した総会になりました。

会は、再任されました大島会長の御挨拶から始まりましたが、まず最初に故佐藤馨前学部長へ、黙祷をささげました。

三宅洋一郎先生 御逝去



短期大学名誉教授の三宅洋一郎先生が、8月1日、静養先の八ヶ岳山荘で肺炎のためお亡くなりになりました。

した。79才でした。

先生は、フェリス女学院短期大学音楽科創設当初から、学校の為に御尽力下さり、又、音楽には何が大切なかを常に私達に教え続けて下さいました。今年3月の公開講座では、ショーマンのユーゲントアルバムについて、大変細かく、又情熱的な講義をして下さいました。

7月4日の前夜祈祷会に続き、5日の御葬儀には、会場となりました鶴見教会にあふれるばかりの人々がかけつけ、最期のお別れを致しました。

生前の御指導に感謝申し上げ、謹んで御冥福をお祈り致します。



心を耕す

声楽学科主任教授 渡邊明

最近わたしは健康の為に、なるべく車に乗らないで歩くことにしている。人より遅れて、40才になってから大変な苦労をして車の免許を取得し、それ以来この便利な物をひたすら愛して13年間、まさにDoor to doorの生活をして来た。気が付いたら、わたしの体の中には中性脂肪とか言う、わけのわからぬ余計なものがこびりつき、血の巡りを邪魔していた。万歩計を腰に、駅の階段を上り電車の吊り革にぶら下がっていると、しばらく遠ざかっていた世間様の生の姿が久しぶりに見えて来た。

商店街には洒落た建物が並び、さらさらと飾られている、しかし何ともそれは薄っぺらく人間の内面に届くものは何もない。道行く人は皆、適当に肥えて小ぎれいな衣装をまとっているが、その目には輝きがない。なぜだろう。

「衣食足りて礼節を知る」という言葉が昔からある。この言葉の深い意味は知らないが、今のわたし達の周囲を見るに、衣食足りているが故に礼節を忘れていた様に思えてならない。わたしにしても、車という衣食に充足して生活しているうちに、体が節操を失っていたということもその類いだ。好きな時に好きな物が買えて、好きな時に好きな物が食べられる、こんな国が日本以外に世

界のどこにあるだろうか。日本の外の世界は今、貧困と飢餓と殺戮に満ちている。

衣食を物、礼節を心とするなら、物と心の関係を改めて考えさせられる。物の価値や量をどこで量るかということだ。

わたし達は、有り余る程の物に囲まれ、例えばタイ米はまずいと言い、捨ててしまいながら、その反面で「安売りショップ」に群がっている、この矛盾した姿をどう感じたらいいのだろうか。朝鮮の女の子のチマ・チョゴリを刃物で切り裂く、この恐ろしい感覚。物の価値を感じる内なる心に血が巡らず痺痺してしまっているとしか言いようがない。

わたし達はもう一度「感じる」ことをとり戻さねばならない。その為には汗水たらして心を耕すことだ。人間として心を耕すことこそ生きる原点ではないかと思えてならない。耕された心で物を見た時、きっと感動が生まれるだろう。そしてその感動はエネルギーとなり、目の輝きとなって現れるに違いない。耕された心で物の価値を量った時、衣食足るというのは「吾唯足知」ということだと感じるだろう。

音楽もまた、その為にあるものではなかろうか。わたし達がモーツアルトの音楽を聞き、そこに「悲しみの中に生きる喜びが、そして喜びの中に悲しみの陰が」感じられたなら、その時こそ本当に音楽を持った、心が耕されたと言えるだろう。

事務報告に続き、弓削学長からは、同窓会と女子大との関係は嫁に出した娘と実家の関係に似ている。親はいつまでも娘の成長を見守り、又実家はいつまでも頼りがいのある所でありたい、との御挨拶をいただきました。

次に、今春退職されました手塚敏子先生へ、感謝の気持ちを込めて花束を差し上げました。（生憎塚原暎子先生は御欠席でした。）38年もの長い間（塚原先生は40年）私達を御指導下さいました事、本当に有難うございました。

芳野音楽学部長に大学の近況報告を伺った後、昨秋、名誉教授になられました先生方からもお話を伺いました。中田喜直先生は、音楽之友社より「音楽と人生」という隨筆集を出版された事。村井範子先生からは、外国での会議に出席されて感じられた、ヨーロッパ人の発想の違い。又最近女子大が見直されているというお話。田中順先生は、年をとるのは素敵な事。音楽をより深く感じる事ができるというお話でした。音楽学部が、まだ山手女学院専門学校音楽科と呼ばれていた頃にお教え下さった寺西春雄先生。倉長治子先生も、相変わらずの優雅なお姿をお見せ下さいました。

朝倉蒼生先生は、すばらしい歌声で会に花を添えて下

さり、出席者一同大変に感激致しました。やはり生の演奏に勝るものはありません。

同窓会では（昨年のFグループ会報での芳野学部長の御指摘にもありました）今まで全国にいらっしゃる同窓生を、2つの支部だけではカバーできていない事に気付き、今年度より支部を増設致しました。

本部、中部、九州（西南改め）に加え、北支部（北海道・東北）そして関西支部です。（詳しくは3面に）

いろいろな活動面で、学校とのつながりの薄さや物足りなさを感じていた方もいらっしゃるでしょうが、今後少しづつでも学校や同窓生相互の結びつきを密なものにしていかれればと思っております。

今回、各支部から役員の方が駆けつけて下さり、販賣に頗ぶれが描いました。お互いに協力しあって行きましょうと決意を新たに致しました。

最後に、佐藤先生のご冥福をお祈りし、お好きだった讃美歌346番を歌い校歌の大合唱で幕をとじました。

時間が足りなくなる程、熱のこもった活気あるスピーチと笑い声、歌声にあふれた総会になりました事、出席いただきました先生方、皆様のお陰と感謝申し上げます。

佐藤先生、安らかに……



先生として親しみのあった頃

城所恵子(7回)

「佐藤先生、ずい分昔のことだけ親しみがあり懐かしいワ」「恥かしがりやだったのかしら、多くは話さなかったけれど一言やさしい言葉をかけてくださりとても勇気づけられたワ」「先生ぶったところがなく、いつもクールだった」「ベルクの<ヴォツェック>を授業で聴かせて下さった。当時それ程現代音楽になじんでいなかつたけれど、それ以来現代音楽に達感がなくなったワ」「ベルクの音楽を聴かせて頂いたことがきっかけで今ベルク協会に入っているけれど、3年もベルクを研究すればベルクの大家になれるよと励ましてくださった言葉が忘れない」…

これは先に音楽科初期の楽理専攻卒業生が集まつた折の佐藤先生をしのぶ言葉の数々です。先生は私が入学した年に芸人の楽理科を卒業してフェリスに来られました。まだ階段途中の赤い屋根と校舎の頃のことです。目が大きく秀才タイプでした。初めは緊張しておられたのか、講義用のノートと間違えてお弁当がバッと鞄から顔を出したり、音楽史の出題範囲が違うと学生たちから試験拒否をされたりと、学生たちの方が早く学校に慣れて先生を困らせたこともあります。当時は先生も学生も人數が少なく、アットホームな雰囲気でしたから、夏休みの御殿場、軽井沢の山荘では先生も学生も一緒にになって楽しいひとときを過ごしたものでした。

中でも、北海道育ちの佐藤先生にとってスキーは足の一部でしたから、冬休みのスキー旅行では実に生き生きとしておいででした。私達が急斜面に怖じ氣づいてボーダンで慎重に滑る横を、ズボンをハタハタとなびかせ、足をビタッつけ遙か前方を見詰めて颯爽と滑る姿は、学校でお見受けする先生からは想像も出来ないものでした。初期の楽理専攻の学生は佐藤先生との良い思い出を数多く持っているのです。校務に多忙であったことから先生から直接論文指導を受けることはなかったようですが、「学問は押し付けるものではない。学生が自ら道を拓いてゆくものだ」と常々言っておられ、自分の考えを表面に強く出すことはありはせんでした。

しかし、芸大楽理科の同期生と訳されたブレンティスホールの音楽史シリーズと、中のネトル著『西洋民族の音楽』からは特に感銘を受けたのか、いつなく誰かにネトルの文を引き合いに出されていました。これがきっかけで学術研究の一部として民俗音楽を研究するよう勧めてください、後に「民族音楽研究会」へと発展することになったのでしょうか。

日本で民俗音楽が広く研究されるようになった頃正にタイムリーな発足であり、先生でなければ出来なかったことだと思います。この灯を四大の楽理専攻生にも受け継いで欲しいと思います。校務を離れてやっとご研究を更

に深められると思っていた矢先の急逝に、どんなに心残りであったことでしょう。先生の靈安らかなることを祈りつつ…。

佐藤先生のこと

櫻井笙子(14回)

大学受験のための英語と論文指導——音楽学の何たるかもわからず、音楽史の和訳に悩まされながら九品体のお宅まで通つたこと——これが佐藤先生にご指導いただいた最初であった。ある時、「あまり時間もないし、正月から勉強しよう」とおしゃって、約束の日に伺うと、「アレー、今日だったっけ?」と出て来られた先生は真赤な顔すでに出来上つてしまい、とても勉強どころではない。せっかく遠い所を来たのだからと、その日は番外で、先生の身の上話に花が咲いた。酔つても、けっして大声を出されることはなかったが、話がどんどん、あらぬ方向に行つてしまい、あいづちを打つのに困ったことを思い出す。

30代の初めくらいだったと思うのだが、その頃の先生には高校生はからかうに手頃だったらしく、勉強していくてもよく脱線した。この傾向は短大に入つても続き、学生が気にするような軽薄な言動の故か、「ホイサ」というニックネームを奉られていた。修養会の余興の時など、「おさるのかごや」をうたいつつ、「ホイサッサ」という部分をことさらに強調してうたうのが當だった。先生の担当は西洋音楽史だったが、この授業はいつも、変色したような古いノートに依るものだったから、楽しくもおもしろくなかったのも致し方あるまい。今にして思えば、この時すでに、短大の組織改革など、手をつけなければいけない問題が山積していたに違いない。

そのような中でも、先生は格別、私の進路を気にかけて下さり、短大卒業後に、専攻科ではなく、芸大の楽理科で学ぶ道も備えて下さった。そして、西洋音楽主体の講座の中に、短期大学としてはいち早く民族音楽を取り入れ、その開講にあたっては、大阪までお声をかけて下さり、今日まで講座は受けさせていただいている。

民族音楽を学ぶことの意義を早くから痛感された先生は、「81年には短期大学の附設研究機関として『フェリス民族音楽研究会』(略して「みんけん」)を創始された。会の実際の運営は、短大の援助の下に、学生や卒業生を主体に行って來たが、初期のフィールドワークには先生も加わって下さり、過密なプログラムの中、関係各所に出向き、頭を下げる回つて下さった。その後も陰に日向に、田中順先生ともども、「みんけん」の活動に理解を示して下さり、時には私的な援助をいただくこともあった。

「みんけん」のメンバーも、結婚や出産を乗りこえて活動を続けているが、先生が切り拓いて下さった道を閉ざすことなく、少しでも、ご学識に報いることができればと、目下、10年ごとのフィールドワークのまとめに入っている。先生に喜んでいただけると信じつつ。



佐藤先生の思い出

坂部まり子(22回)

入学して初めての佐藤先生の「音楽学ゼミ」は、2年生との対面で始まりました。その日の私は、受験勉強から開放されてはいたものの、待望の専門科目、しかも音楽学は私一人でしたから緊張しきっていました。ところが先生はなかなかお見えにならず、優しいおっとりとした2年生と最初に出会つた事になりました。大分経つて「やあー」と笑顔で階段を小走りに昇つて見え、最初の対面はその様に拍子抜けしたものでした。その後も変わらずひょうひょうとした、威圧感を抱かせない教授でいらっしゃいました。

音楽学のゼミは、2号館の展望台室の様な研究室で行なわれました、そこはらせん階段をくるくると4階まで昇つたところにあり、アップライトピアノが1台、机、楽譜の入ったロッカーがあるだけの小さな部屋でした。けれども見晴らしは良く、ゼミの最中でも広い空が見え、ホッとすると空間でした。1年生の時はそこでハーヴァードの音楽辞典の翻訳が主でしたが、私のもどかしい読み方にも、細かいチェックはされず、又少しましな言い回しが出来た時には、大げさなほど評価をして下さり、とてもおおらかにご指導頂きました。同級生から「佐藤先生の個人授業ってどんななの?」と聞かれる事がありました。同級生は、専科が実技のレッスンでしたから、多分、毎週きびしい時間を過ごしていたのだと思います。その様な背景から「佐藤先生はさぞや…」と少し興味を持たれたのだと思います。事実、先生は本人(私)の勉強次第で進んでゆくという姿勢でいらっしゃいましたから、周りからすればリラックスしていると見られた事でしょう。

私の2年生の時からリコーダーが導入され、楽理の必修科目となりました。先生は色々なパートを率先して受け持たれ、学内演奏会でもリコーダー・アンサンブルで発表の機会を頂きました。その様な時には大変な集中力を發揮され、皆がハーモニーの楽しさに酔い、充実した時を共有したものでした。

専攻科の時には音楽科の5号館校舎が建てられ、先生ご自身のお立場も要職につかれ、その頃から忙しいお身体になつていらしたと思われます。

そんなある日、私達専攻科の悪い仲間が4人、音楽史の時間の前に廊下で佐藤先生を待ちかまえ、とんでもない事を提案しました。それは、4人がセルフコントロールをし、一齊に指2本づつ先生を宙に上げてしまうというものでした。勿論先生にお声を掛けるのは私の役でした。もうドキドキして、お怒りになったら、次の授業は受けさせて頂けないかも知れない……と覚悟しておりましたところ、あっさりと「あ、いいよ」と答えて下さり、やってみると思っていた以上に高くまで上がりました。これには先生ばかりでなく、私達の方も却つて驚いてしまいました。あの時の事、先生はどう思つていらしたのか、今はもう知る事もできません。

先生はゲーテがお好きで、卒業式にもある詩を詠まれました。石のことを書いた子守唄という事でした。

石はただの石に違ひはないが、それぞれの役目もある。小石は子供の手で遊ばれ、大きな石は建物の土台になる。と、そのような内容であったと思います。私達が石に喰えらるならば、それぞれが適材適所で役割を果たすのです。というメッセージと受け取られて頂きました。

今も先生のお宅は自由ヶ丘にあり、私が車で買い物に出る時はよく前を通ります。いつか先生のお顔が見えた時、昔のこと等お尋ねしてみたい、と思っておりましたのに、こんなに急にそれも果たせぬ事になつてしまい大変残念です。佐藤先生には助手として使っていただいた年数を入れると数年間お世話になりましたが、やはり学生の身で3年間、ゆったりと学ばせて頂いたあの頃が一番懐かしい思い出として残っております。有り難うございました。ご冥福をお祈り申し上げます。

新支部発足—支部だより



● 北支部

支 部 長 佐久間真理子 (16回)
副支部長 福井 直美 (20回) 平岩由美子 (24回)
北海道連絡所 工藤 羊子 (30回)

北海道、東北地方に「北支部」と名付けられたFグループ支部が設置されました。早速「発足会」を開き、皆様にお目にかかるうとしたのですが、北支部は日本地図の相当な部分を占めていて、そこに点在する55名が一堂に会することは、そう簡単なことではないと気付きました。

相談の結果、メンバーが各々を身近に感ずることから始めないと、自己紹介を載せた名簿作りから取りかかることにしました。

北支部設置のお知らせと、名簿作りの資料集めをきっかけに、早くも集まりを持ち、楽しい時を過ごしたグループの報告も受けています。「お互いに、初めてとは思えぬ程打ちとけて、これからのおつき合いが楽しみだ。」「今まで地区での他校の同窓会活動がうらやましかった。」「音楽活動をする上で一人ぼっちは心細かったがこれからは協力し合える。」又、「現在フェリスにいらっしゃる先生に関して詳しく知りたい。」「すでに離れていらっしゃる先生が、どうしていらっしゃるか知りたい。」等々、皆様の声も届きました。

このような出会いが大きく広がり、Fグループとしての結び付きが生活に輝きを増す一因となりますよう、皆様と共に進めていきたいと思います。

佐久間真理子 (16回)

トをめざして、プログラムも時代別とか作曲家別とか様式別等と、準備段階の時より内容において試行錯誤しながら、ソロあり連弾あり、お母様伴奏によるバイオリン演奏等楽しい音楽会です。又、各部の最後に若干同窓生による模範演奏も、子供達や御父兄の皆様に大変好評です。

6月10日には電気文化会館ザコンサートホールにて、Fグループふれっしゅコンサートが開かれました。新卒者の地元におけるデビューコンサートという事で、今年も多勢の知人友人親戚の方々が聴きに来て下さいました。それぞれの演奏者も、緊張の中にも新人らしいハツラツとした初々しい演奏でした。落ちていた中にもフェリスらしい華やかな雰囲気で行われました。新人の方々の今後に期待しつつ帰路につかれた人々も多い事でしょう。

三つ目のコンサートは、秋本番11月11日電気文化会館のザコンサートホールにて、Fグループジョイントリサイタルが開かれます。スマーミスのタベということで、今回初めての試みとして、フェリス以外から特別出演のお二人をお招きいたしました。ヴァイオリン山岸美恵子さんは、新潟大学教育学部音楽科卒業後、ドイツのハノーヴァ音楽大学に3年研鑽を積まれた後、現在スイスに本拠を置きソロ室内楽オーケストラの各方面で演奏活動中です。又、天野武子さんはチェロ専攻で、東京芸術大学音楽部卒業、同大学大学院修士課程終了後ウィーンにて研鑽後、現在は東京ハルモニア室内オーケストラのメンバー。又、ソロアンサンブルを各方面で演奏活動を行っておられ、愛知県立芸術大学教授をされています。

このリサイタルが素晴らしいものとなる事を今からとも楽しみにしています。全国の皆様も是非お出かけ下さい。

会員の皆様の御協力により、中部支部の活動が一層充実致します様、役員一同努力するつもりでおります。

服部幸子 (20回)

● 中部支部

支 部 長 峯沢 訓子 (14回)
副支部長 服部 幸子 (20回) 牛込 まり (25回)
書 記 金久保珠美子 (22回)
会 計 倍野さち子 (21回)
ジュニア・シニアコンサート委員
都築 典子 (23回) 大庭千恵美 (25回)
壁谷 热子 (36回)

私共Fグループ中部支部では、毎年それぞれ特徴のある三つのコンサートが開かれております。今年は春まだ浅い3月13日、名古屋松坂屋ホールにおいてFグループジュニアコンサートが開かれました。幼稚園児から大学生にいたるまでの、総勢70人程の会員のお弟子さん達によるものです。毎年、より音楽的なコンサー

● 関西支部

支 部 長 井上 純子 (7回)
副支部長 田嶋 靖子 (10回) 富士森恭子 (10回)
会 計 平田 孝子 (16回)
書 記 千 明子 (18回)

7月31日、関西支部（近畿・中国・四国地方）現在110名の、はじめての同窓会が、新大阪のワシントンホテルにて行われました。

賑多忙の中、学部長の芳野靖夫先生、同窓会会长の大島君子先生をお迎えして、中華料理をいただきながら、

とても楽しい一時を過す事ができました。

学部長のお話によりますと、今大学では、演奏家として活躍できる一流の教授陣、すばらしい講師陣が揃っているらしく、又学生（代々木ゼミの入試偏差値、芸術系で一位）もやる気まんまで、よい大学にしようという思いがいっぱいだそうです。ところが、現在の大学と卒業生との結びつきが薄くなっている事に気付き、残念に思っているらしくとのことです。

一方、変革期にあって、陰ながら支えていらっしゃる同窓会長の大島君子先生からは、同窓会本部としてもバックアップ致しますから、何かFグループらしい企画で、演奏会等の活動ができる様になればというお話をございました。

今回は参加者14名のささやかな発会式となりましたが、伝統あるフェリス女学院と、更に充実発展している大学の今後に期待し、関西支部会員皆様の御理解と御協力をお願いし、母校の未来を輝やかしいものにしたいと思っております。

私も会計を仰せつかり、不慣れながら務めさせていたく事になりました。どうぞ宜しくお願ひ致します。

今後の関西支部の発展に乾杯!! 平田孝子 (16回)

● 九州支部

支 部 長	田村 淑子 (8回)
副支部長	江口 玲子 (14回) 牛島 悅子 (19回)
会 計	佐竹 悠子 (11回)
書 記	永松 貞世 (24回) 村上 京子 (24回)
幹 事	上瀬 享子 (23回) 伊藤 和子 (24回) 小野 直子 (33回) 安達 桃子 (37回)
演奏会実行委員	安波 裕子 (24回) 伊藤 和子 (24回) 小野 直子 (33回)

今年の夏は早々と梅雨が明け、すでに盛夏を迎えた博多のまちは、博多祇園山笠の準備に大わらわです。

去る7月3日(日)、九州支部同窓会が、福岡市のキリスト教会館におきまして、朝倉蒼生先生をお迎えして行なわれました。当日は、この夏一番の暑さの中、約45名の同窓生の皆様がお集まり下さいました。

前半は、有志によるミニサロンコンサート。後半は、昼食をとりながらの懇親会という形で進められました。コンサートでは、独唱が2名(6曲)、ピアノ独奏が1名(2曲)、ピアノ連弾が一组(2曲)、というプログラムでしたが大変熱意のあふれる演奏に、たくさんの方々が湧きおこりました。日頃の研鑽の成果を発表し合う姿に、多くの方々が感銘を受けられたものと思います。朝倉先生に、「とてもハートフルな演奏でした」というおことばと共に、先生御自身の演奏も聽かせていただき、そのすてきな歌声に、会場は静かな感動につつまれておりました。

昼食をとりながらの懇親会では、新役員の紹介及び会計報告の後、朝倉先生に大学の近況についてお話をうかがい、なつかしい母校への思いを確かめることができます。これからも発展を願いつつ私達卒業生も、音楽を選んだ者としてさらに進んで行きたいものだと思わずにはいられませんでした。

10月には福岡銀行本店ホールにて、音楽学部長の芳野靖夫先生によります「ドイツ歌曲名曲のタベ」と題したリサイタルが行なわれます。是非盛会となりますよう、同窓生一同心を合わせ協力して参りたいと思っております。

九州支部は、来年秋に卒業生有志による演奏会を企画しており、その為の演奏会実行委員会も組織され、少しずつ準備が進められております。この演奏会が、学び合える同窓生の集いとして大成功をおさめられますよう一同頑張ってやみません。

浅野博子 (25回)

聴いて、この弦の響を！

Fグループ弦楽
アンサンブル団長 神戸 愉樹美（20回）

Fグループ弦楽アンサンブルは、短大が最後の卒業生を送り出すころ、長年お世話になった久保田良作先生に感謝を表すため、歴代ヴァイオリン科卒業生が集まってパーティーを開いたことがきっかけでした。

せっかく全国から集まるならば、全員が楽器を持って集まり、合奏をしようと企画したところ、海外在住を除いて、50名余りの方をお集まりくださり、たいへん盛り上がりしました。その味が忘れられず、合奏を続けようと、4年間練習に励んでまいりました。

私たちは、ともかく弦楽アンサンブルがしたい、と集まっていますが、内輪の遊びに留まりたくありませんでした。1990年より弦楽器専門生のいない音楽学部に、なんとか弦の響きが絶えないようにしたい。また、地域や教会などで何とかお役に立てないかと、活動の場を模索してまいりました。

今まで私たちが公に演奏したのは、1992年11月20日フェリスホール「Fグループ・ジョイント・リサイタル」主催：大学・音楽学部同窓会、後援：大学音楽学部、1993年3月25日神奈川県立音楽堂「山手音楽教室特別演奏会」東洋信託文化財団助成、1993年4月6日神奈川県立音楽堂「フェリス女学院大学入学式」でした。

練習は、校舎をお借りして月1回集まり、久保田先生のご指導を仰ぐ日と自主練習と交互にしております。メ

ンバーの年令差は30才近くもあり親子と一緒に合奏している風でもあります。毎年、新幹線で仙台や名古屋からも集まり、最近ではサウンドもまとまってきた。

音楽学部には、さいわい1995年から弦楽器の専門生を受け入れが始まるそうです。私たちの「一刻も早く弦楽科を」との夢がこのように早く叶えられることを喜ばしく思います。また、ご尽力くださった先生方に心より感謝を申しあげます。

私たちFグループ・アンサンブルは、これを機に、これまでの活動をまとめたいと、1995年春に大島君子先生のお力添えをいただき、演奏会を企画いたします。ぜひお越しいただきたいと思います。

また、みなさま方の中で、コンチェルトを弾いてみたい方はいらっしゃいませんか？ 私たちは、そうした場合のお役にも立ちたいと思っています。また、私たちにふさわしい活動の機会がございましたら、ぜひご紹介ください。



合唱公開講座へのお誘い

皆様は<フェリスウィメンズグリークラブ>という名前を聞かれた事がおありでしょうか。この講座は15年前に卒業生の為に開かれた、合唱研究会が母体となり、学校と在校生の方々にさせられ、短大が4年生の大学になった時に、公開講座の中に組み込まれ、新しい形で続けられております。合唱の指揮では定評のある10回生の桑原妙子先生のご指導の元、宗教音楽を中心に、古典から現代まで幅広く練習しております。又、今年はクリスマスコンサートの出演が決まっていますが、来年は、独自のステージもと、夢はふくらんでおります。

ぜひ、卒業生の皆様のご参加をお待ちしております。

練習日時 毎週火曜日午前10時40分～12時10分

場 所 フェリス女学院大学 緑園校舎

連絡先 江原郁子 ☎ 045(983)3776

同窓会連絡会

同窓会連絡会主催のクリスマス礼拝は、今年で6回目となります。年々出席者も増え、会場にはカップルで御出席の方々もみられる様になりました。今年は又Fグループのお当番です。オルガン科教授の林佑子先生が音楽を担当して下さいますので今から楽しみです。

皆様どうぞお誘い合わせの上、ぜひご出席下さいませ。

フェリス女学院同窓会クリスマス礼拝

日 時 12月10日（土）午後2時～3時30分

会 場 フェリスホール

説教者 気仙三一先生

慶 祝

- '93 9月 朝倉蒼生先生（シティーオペラ）
神奈川文化賞受賞
- 10年20日 安藤由美子さん（32回）
日本音楽コンクール2位
- 11月3日 遠山一歩先生
黒三等旭日中綬章授賞
- '94 2月 中野真帆さん（34回）
ルーセルピアノ国際コンクール（ブルガリア）第4位及びルーセル賞
- 7月 ロヴューレ、ドーロ国際コンクール（イタリア）第1位及び特別賞ロヴューレ、ドーロ金賞

白菊秋のオープンティータイム

神西敦子さん（中高S30卒）のピアノ演奏会

日 時	10年1月（土）午後2時開演
会 場	フェリスホール
曲 目	モーツアルト ピアノソナタK545 ショーマン 子供の情景 op. 15 ショーベルト 4つの即興曲 op. 90
会 費	2,000円
お申込み	江原（7回）

研修会報告

'93. 10月1日（金）フェリスホールにて、Fグループ・白菊会・りべるて・りてらのフェリス女学院同窓会連絡会主催による研修会が開催されました。今回は講師として田中順先生（1回）をお迎えし、「コラールをめぐって」というテーマの基、美しく力強い詩と簡単なメロディーのコラールをめぐっての大変興味深いお話をされました。さらに、名曲を聴いたり、ぜいたくにもフェリスホールのパイプオルガンの伴奏で讃美歌の合唱指導を受けることができ、会場に集まった同窓生は大変貴重な時をすごすことができました。

パイプオルガン伴奏：上野睦さん（29回）

ピアノ伴奏：金子良子さん（4回）

Fグループ1993年度収支報告書

収 入		支 出	
項 目	金 額	項 目	金 額
前 年 度 構 筑 金	17,330,244	終 身 会 費	23,127
終 身 会 費	8,650,000	施 用 会 開 係	1,043,359
施 用 会 開 係	450,000	ジョイント・リサイタル賛助	329,827
ジョイント・リサイタル賛助	312,000	研 習 会 開 係	619,837
研 習 会 開 係	82,500	同 窓 会 援 助 金	150,000
事 務 会 開 係	17,000	リサイタル後 援 会 開 係	190,000
名 常 会 開 係	24,840	Fグループ会報開係	361,365
最 行 利 息	121,037	費 用 費	69,215
		活 動 費 開 係	235,171
		会 長 選 事 開 係	184,496
		学 年 選 事 会	75,932
		会 議 開 係	236,406
		事 務 開 係	66,968
		名 常 会 開 係	26,800
合 计	26,993,621	合 计	3,603,871

1993年度 収 収 入 9,661,377 経 支 出 3,603,871

前年度構築金 17,330,244

合 计 26,993,621 3,603,871 23,389,750

（次年度構築金）

お知らせ

音楽学部同窓会では、来春、会員名簿発行を予定しておりますが、今回より、希望者のみに販売させていただきます。（予定価格2,000円）

今秋、改めて名簿希望の有無を確認するはがきを差し上げますが、住所等変更のありました場合は、名簿不要の方も同はがきにて必ずお知らせ下さい。

又、学年幹事を変更された時は、その都度常任委員まで御連絡をお願い致します。

常任委員：石井朝美（37回）

コンサートへのお誘い

'94 9月30日（金）

八木英子・大島君子ジョイントリサイタル

だいしホール（新潟市）

2,000円 Fグループ後援

'94 10月13日（木）

大島君子リサイタル

サントリー小ホール 午後7時～

3,500円 Fグループ後援

'94 11月10日（木）

Fグループジョイントコンサート

フェリスホール

田中美穂 P.（40回）

平井桂子 C.（33回）

永松貞世 P.（24回） 安波裕子 P.（24回）

芳野靖夫先生（特別出演）

2,000円 Fグループ主催

'94 11月15日（火）

齊藤定子（12回）メゾソプラノリサイタル

富士市文化会館ロゼシアター

3,000円 Fグループ後援

ジョイントコンサートへの出演、及び後援のお申し込みにつきましては、下記執行委員まで御連絡をお願い致します。申し込み用紙をお送り致します。

ジョイントコンサートにつきましては、Fグループ会員で、先生の推薦のある方に限ります。又、希望者多数の場合は書類選考とさせて頂きます。

後援は、役員会にて決定させていただきますので、3ヶ月前までに申請書をご提出願います。

執行委員：大坪悠子（15回）

—Fグループ後援演奏会—

（'93.11～'94.7）

1993.11.14 江口元子・ソプラノリサイタル（4回）

サントリー小ホール

1993.11.19 井田世詩子・宗教曲と日本の歌（37回）

富士見町教会

1994.1.9 細木朝子・歌曲の午後「ウィーンの世纪末」

サントリー小ホール

1994.1.10 中野真帆子・ピアノリサイタル（32回）

津田ホール

1994.3.6 雨宮節子・シャンソンコンサート（3回）

鎌倉芸術館小ホール

1994.3.13 三宅洋一郎先生公開講座

トライアンゲルホール

1994.4.3 平岩由美子・デュオリサイタル（24回）

水沢市文化会館中ホール

1994.4.10 田中美穂・土佐緑、中山久美子・ジョイン

トリサイタル（40回）

市川市文化会館小ホール

1994.6.25 田中美穂・ピアノリサイタル（40回）

新居浜市民センター大ホール

1994.7.15 本村みどり・ピアノリサイタル（36回）

神奈川県民小ホール